

わかりやすいシラバスの書き方

■講師



佐藤 浩章

(愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 副室長・准教授)

北海道大学教育学部教育学科卒業。同大学院教育学研究科教育制度専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位取得満期退学。ポートランド州立大学客員研究員。愛媛大学大学教育総合センター教育システム開発部講師、同センター教育開発部講師、同部助教授を経て現職。

■プログラム概要

シラバスは、授業をデザインするためのツールであり、より良いシラバスを作ることはより良い授業を作るための出発点となります。しかし、シラバスを作るためには、様々な授業形態、評価方法といった知識がなければなりません。また、授業全体をわかりやすく構築するデザイン力も必要となります。

本プログラムでは、参加者の皆さんに良い授業づくりのヒントを持ち帰っていただくため、シラバスの定義、目的・目標の設定、授業内容・スケジュールのデザイン、評価方法の選択について具体例を示しながら解説します。また、最近注目されている学生の授業時間外学習を促す事例も紹介していきます。後半では、ブラッシュアップの時間をとりますので、参加者はご自分の授業のシラバスをご持参下さい。次学期から新しいシラバスを使って授業ができるようになります。

■本プログラムの到達目標

1. シラバスの定義を説明することができる。
2. 適切な目的を書くことができる。
3. 適切な目標を書くことができる。
4. 効果的な学習を促すスケジュールをデザインできる。
5. 適切な評価方法を選択できる。

様々な評価方法

■講師



野本 ひさ

(愛媛大学教育・学生支援機構学生支援センター副センター長・准教授、愛媛大学大学院医学系研究科 看護学専攻・准教授)

愛媛大学法文学部文学科卒業、同大学院農学研究科修士課程修了、同大学院連合農学研究科博士課程修了(学術博士)。愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻助手、講師を経て現職。平成16年度より学生支援センター副センター長を兼任。

■プログラム概要

大学教育における成績評価については、評価の原則を教員が十分理解していない、明確に設定されていない目標を評価しようとしている等の問題があります。また、学習の到達度を測定するためには、その学習目的に応じた方法を選ばなければなりません。

このような問題点を解決するため、成績評価に関する基礎知識やテストに関する知識についてわかりやすく解説します。また総合的な評価方法として、評価を指導に活かすルーブリック評価、複数の教員が担当する新生セミナーの評価、グループ学習の効果を高める実技試験など様々な評価の方法を紹介します。

なお、各教員がお持ちの成績評価に関する個々の疑問点にもお答えしますので、成績評価方法を取得したい方だけでなく、成績評価に関する疑問点をお持ちの方も是非ご参加ください。

■本プログラムの到達目標

1. 評価の原則を理解する。
2. 多様な評価の方法を身につける。

9月9日(水)10:00~17:30(3コマ連続)／M23教室

教員主導・学生主体の授業の進め方①～③

■講師



中村 文子

(ダイナミックヒューマンキャピタル株式会社 代表取締役)

有名外資系企業で人材育成に従事、2005年より現職。トレーナー養成では世界的権威であるボブ・パイク氏の提唱する「参加者主体のトレーニング手法」を用いた「トレーナー養成ワークショップ」を日本で展開している。ビジネスコミュニケーションスキル、ホスピタリティ関連の研修やコンサルティングを行っている。早稲田大学エクステンションセンター、日経ビジネススクール、日本能率協会にて講師実績あり。

■プログラム概要

企業が研修に投資することの意義は、社員が研修で学んだことを職場で実践し、ビジネスにおいて成果を出すことです。職場で実践するためには、研修で学んだ内容が記憶に定着していること、そして実践しようというモチベーションを持っていることが必要です。その二つを促進するための研修デザインと、クラス運営の手法を体系化したものが「参加者主体」の手法です。本プログラムでは、その一部をご体験いただき、授業への活用や応用方法を見出していただくことを目的としています。デザインや学習のプロセスは教員・講師に主導権がありますが、その学習のプロセスにいかに関与し、学生の主体性を引き出すかがカギです。「先生のお話を学生が聞く」一方的な講義スタイルから脱却し、学生が自主的に授業に参加するような運営方法を検討し、実践していただくアイデアを見出していただきます。

■本プログラムの到達目標

「参加者主体」の手法を体験し、

1. 授業デザインへの活用・応用方法を見出す。
2. 効果的なオープニングとクロージング方法の実践案を見出す。
3. 学生が授業に自主的に参画する方法を検討し、実践案を見出す。

9月9日(水)10:00~12:00/M24教室

経営者、管理者養成プログラムの考え方と手法～大学経営を担う役割をどう果たすか

■講師



小日向 允

(特定非営利活動法人 大学職員サポートセンター理事長)

東京経済大学経済学部卒業、中高教員(4年半)、学校法人東京経済大学の各業務・役職を経験、定年退職後に学校法人芝浦工業大学総務担当常務理事(6年間)、学校法人武蔵野美術大学理事、その間産能短期大学兼任教員(10年間)、社団法人日本私立大学連盟管理職研修運営委員会委員・委員長(13年間)、同連盟経営委員会委員。

■プログラム概要

近年大学を取り巻く環境の急激な変化のなかで、大学経営の健全な発展を計るには経営人材の養成が緊急の課題であるとの問題意識が生まれてきた。大学職員サポートセンターは、かねてから経営人材の養成の研修を計画してきたが、文部科学省から昨年末に「大学経営人材養成プログラムと教材開発」の業務委託を受け調査研究を行った。この成果について講演の最初に説明する。

大学の経営者と補佐職の幹部職員、管理職の経営管理に果たす役割について詳しく説明する。その内容は、Ⅰ. 大学の存在の基盤である大学の理念、ミッションと自治、自主性の重要性と大学の組織運営の特性を究明、Ⅱ. 非営利組織としての大学の特質の理解と、構成員の役割を考える。さらに、この基本理解のうえで、組織運営の活性化の方策、将来計画の策定を計る。最後に、Ⅲ. 職員・管理職の役割を説明する。

■本プログラムの到達目標

1. 大学の一般企業と異なる特質と、経営の観点での共通性を理解する。
2. 大学の目的である教育研究と社会貢献は、経営活動の基盤の上で展開される。
3. 大学の教学と経営の一体的な運営をはかる努力が求められている。
4. 大学の経営管理を担う経営者、補佐職、管理職には重い責任(自己完結責任)がある。
5. 経営者、補佐職、管理職、職員の役割認識を明確にする。

この到達目標のために、詳細なレジюмеを用意して理解を深めたい。

9月9日(水)10:00~12:00/M31教室

事務職員はFDにどう関わるか



■講師

(左から順に)

西尾 澄気 (愛媛大学 教育学生支援部教育企画課長)

高知大学職員、都城工業高専会計課長、愛媛大学経理課長、鳴門教育大会計課長、愛媛大学学生生活課長を経て現職。

河野 太志 (愛媛大学 教育学生支援部教育企画課教育企画チームリーダー)

愛媛大学職員、文部省高等教育局専門教育課、高等教育企画課、大学改革官室、国立大学法人支援課、大学振興課専門職を経て現職。

石川 尚 (愛媛大学 教育学生支援部教育企画課教育企画チーム)

高知工業高専職員、(独)国立高等専門学校機構を経て現職。

■プログラム概要

近年、「学士力」「社会人基礎力」をはじめとして、大学教育では「学生が何を身につけたか」を問われることが多くなりました。時を同じくして、各大学にはFDが義務付けられるなど、まさに大学教育の在り方自体が変革の時期を迎えています。

このような時期、大学教育の改善について、事務職員には何ができるでしょうか。

本プログラムでは、「教職協働」を1つのキーワードに、愛媛大学教育企画課が教員組織である教育企画室と行っている活動事例をもとに「事務職員はFDにどう関わるか」を参加者の皆様とともに考えてみたいと思います。

参加者の皆様にも、自身の大学での教育改革への事務職員の関わり方について、簡単なお報告をいただきたいと考えています。また、事前に「中央教育審議会答申—学士課程教育の構築について—」をご一読の上ご参加ください。

■本プログラムの到達目標

1. なぜ事務職員はFDに関わる必要があるのか説明できる。
2. 他大学の教職協働の事例をもとに自大学でできる教職協働の取組を見つけることができる。
3. 事務職員のFDへの関わり方について提案することができる。

9月9日(水)10:00~12:00/M33教室

POD2008参加報告

■講師



川野 卓二
(徳島大学・大学開放実践センター・教授)

米国ユタ大学大学院教育心理学研究科博士課程修了。専門は教育心理学、統計学。



宮田 政徳
(徳島大学・大学開放実践センター・准教授)

広島大学文学研究科博士課程後期満期退学。専門は英語学。

■プログラム概要

ここでは、米国におけるFDに関わるネットワークであるPOD(Professional and Organizational Development Network in Higher Education)について概略を紹介します。PODでは、FDに関わる関係者が1800人近く集まり、様々な活動を展開しています。PODは、四国地区大学教職員能力開発ネットワークの名称SPODの由来となったものであり、本ネットワークの構築へ向けて重要な示唆を与えてくれたものです。今回は、2008年に米国ネバダ州リノで行われた第33回年次大会への参加経験をもとに、その概要について報告します。SPODから参加された方々も交えて、PODへの参加を考えている皆様との情報交換の場としても設定しております。今後参加を予定されている方はぜひご参加ください。

■本プログラムの到達目標

1. PODの組織について説明できる。
2. PODカンファレンスの特徴について説明できる。
3. POD大会参加の準備を行う。

9月9日(水)13:00~15:00/グリーンホール

ティーチング・ポートフォリオとは何か？

■講師



栗田 佳代子

(大学評価・学位授与機構 評価研究部 准教授)

東京大学大学院教育学研究科修了後、カーネギーメロン大学 Visiting Scholar等を経て、2005年より現職、博士(教育学、2002年、東京大学)。専門は教育・心理統計。P・セルディン氏に師事し、ティーチング・ポートフォリオ、アカデミック・ポートフォリオの”正しい導入”について、ワークショップ開催や翻訳、講演等を通じた実践的な研究を行っている。

■プログラム概要

個々の教育活動をいかに把握し、改善や評価、共有につなげるかは、現在の高等教育機関の抱える重要な課題の一つです。本プログラムでは、この課題に対応し得る有力な一手法であるティーチング・ポートフォリオ(以下 TP)について学び、考えます。TPとは「自らの教育活動について振り返り、自らの言葉で記し、様々なエビデンスによってこれらの記述を裏付けた教育業績についての厳選された記録」です。その TP の基本的な特徴や構造、効果を、TP の作成体験を行いつつ修得します。

さらに、組織や個人にとってどのような効果をもたらされるのかについて理解を深め、その効果が正しく得られるために機関として整えるべき体制や導入方法についてもとりあげます。

TP 作成体験では、ご自身のミニ TP を作成します。「もっとも力をいれている講義あるいは教育活動」のシラバスあるいはそれに類するものをお持ちください。作成体験では、きっとご自身についての発見があります。

■本プログラムの到達目標

1. ティーチング・ポートフォリオ(TP)の特徴と基本的構造を他人に説明できる。
2. TP の体験版(ワーク)により、自分の教育についてあらためて振り返り教育理念について整理を行う。
3. TP の教員にとってのメリット、組織にとってのメリットを挙げることができる。
4. TP の可能性について所属の文脈において考えるきっかけを得る。

「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム開発」現況報告

■講師



(左から順に)

久保 研二(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室特定研究員)

広島大学教育学部第一類卒業。同大学院教育学研究科学習開発専攻博士課程在学中。修士(教育学)。専門は教師教育学。

大竹 奈津子(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室特定研究員)

愛媛大学農学部生物資源学科卒業。愛媛大学連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程満期退学。専門は水文学。

大谷 哲夫(愛媛大学経営企画部人事課副課長)

愛媛大学、放送大学愛媛学習センター、愛媛大学を経て、平成19年4月より現職。

塩出 和久(愛媛大学経営企画部人事課人材開発・サービスチームリーダー)

広島大学、愛媛大学を経て、平成21年4月より現職。

上田 亜貴子(愛媛大学経営企画部人事課人材開発・サービスチーム)

平成19年4月より現職。

■プログラム概要

SPODでは、事務職員の資質・能力向上を目的に、四国地区の国公立大学、短期大学、高等専門学校職員の職員が集まり、現在SDプログラムを開発中です。そのうち「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム」は、平成21年1月に開催したSPOD-SD合宿セミナーで、参加職員の皆さんがチームごとに作成したプログラム案を基に愛媛大学の作業グループがまとめたものです。このプログラムは、大学のカリキュラムに例えると共通教育の部分であり、高等教育機関職員全員に必要な一般的能力を修得できるよう開発しました。

本プログラムでは、SDプログラム開発の概要や「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム」の内容、構築の手法やこれまでの作業過程について説明します。また、後半では、ワークショップ形式でのディスカッションを予定しています。参加者の皆さんと一緒にプログラムをブラッシュアップし、より良いものを開発できればと思いますので、ふるってご参加ください。

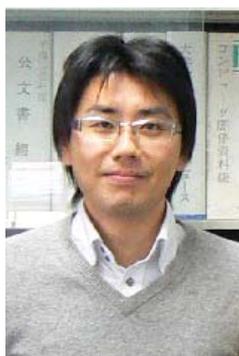
■本プログラムの到達目標

1. SPOD-SDプログラムの概要を説明することができる。
2. 「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム」の内容を説明することができる。
3. SDプログラムの構築の手法を説明することができる。

9月9日(水)13:00~15:00/M24教室

キャリア教育入門

■講師



葛城 浩一

(香川大学教育・学生支援機構大学教育開発センター准教授)

広島大学教育学部教育学科卒業。同大学院教育学研究科教育学専攻博士課程前期修了。同専攻博士課程後期退学。広島大学高等教育研究開発センターCOE研究員、香川大学大学教育開発センター講師を経て現職。

■プログラム概要

近年、「キャリア教育」と題したフォーラムやセミナーが国内の至るところで行われています。需要がないところに供給が鑑みれば、高等教育の現場においては、キャリア教育、特に低学年からのキャリア教育はブームともいえる状況にあるといえます。

本プログラムでは、キャリア教育の定義から、キャリア教育が必要とされてきた背景や大学におけるキャリア教育の位置づけについて解説します。後半では、それらの内容をふまえた上で、所属大学で行われているキャリア教育の問題点を整理し、所属大学における理想的、かつ現実的なキャリア教育の位置づけを提示していただきます。個々の大学において、キャリア教育のあり方を考える際の一助となればと考えます。

■本プログラムの到達目標

1. キャリア教育の定義を説明することができる。
2. キャリア教育が必要とされてきた背景を説明することができる。
3. 大学におけるキャリア教育の位置づけを説明することができる。
4. 所属大学で行われているキャリア教育の問題点を指摘することができる。
5. 所属大学における理想的、かつ現実的な、キャリア教育の位置づけを提示することができる。

9月9日(水)13:00~17:30(2コマ連続)／M31教室

大学職員のための企画力養成講座①②

■講師



秦 敬治

(愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 副室長・准教授)

西南学院大学商学部経営学科卒業。九州大学大学院人間環境学研究院発達・社会システム専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位修得満期退学(教育学博士)。学校法人西南学院本部・大学経理課係長(主査)、愛媛大学経営情報分析室助教授を経て現職。

■プログラム概要

大学職員に必要な能力として「問題発見・解決能力」がよく取り上げられています。このプログラムは、大学改革、業務改善を行っていく上での、「問題発見・解決能力」と「企画提案力」の手法を学ぶものです。研修のための研修ではなく、このプログラムで身につけた手法や企画書を実際に大学に持ち帰り、上司や大学に提案できるよう、実践に即したスタイルで行います。大学や今の業務に疑問や改善点を持たれている職員の方はもちろん、どうやって見つけたらよいか、提案したら良いのか分からない職員の方もどうか遠慮なく参加ください。

■本プログラムの到達目標

1. 問題発見手法を実践することができる
2. 多くの情報をグループ化することができる
3. 問題解決提案を行うことができる
4. 企画を効果的にプレゼンテーションすることができる

9月9日(水) 13:00~15:00 / M33教室

どうする？初任者研修

■講師



川野 卓二

(徳島大学・大学開放実践センター・教授)

米国ユタ大学大学院教育心理学研究科博士課程修了。専門は教育心理学、統計学。



宮田 政徳

(徳島大学・大学開放実践センター・准教授)

広島大学文学研究科博士課程後期満期退学。専門は英語学。



香川 順子

(徳島大学・大学開放実践センター・助教)

大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。専門は教育工学、大学教育。

■プログラム概要

徳島大学では2002年度から初任者研修を実施してきました。ここでは、徳島大学での初任者研修の事例を参考にしながら、自校の問題を考えて頂き、参加される方々の所属機関にそった初任者研修プログラムの企画・立案を行います。初任者研修の企画を考えておられる教職員の方々を対象に、個人作業、グループワークを行いながら企画・立案を進めていきます。今回は、これまで初任者研修に携わってきたスタッフがファシリテーターとなり、徳島大学での具体的な取り組み事例を紹介しながら、プログラムの計画・立案を進めていきます。

■本プログラムの到達目標

1. 初任者研修を企画・立案する際の問題を把握することができる。
2. 初任者研修プログラムの目標を設定することができる。
3. 初任者研修の具体的な方法を考えることができる。

9月9日(水)15:30~17:30/グリーンホール

ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーの開発と一貫性構築の進め方

■講師



小林 直人

(愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室室長

愛媛大学 医学部 総合医学教育センター長・教授)

昭和 63 年3月東京大学医学部医学科卒、博士(医学)。順天堂大学を経て、平成 10 年より愛媛大学医学部解剖学第一講座助教授、平成 17 年より愛媛大学医学部総合医学教育センター教授。平成 21 年度より教育・学生支援機構 副機構長および教育企画室長を兼任、教育担当理事の下、大学全体のFDをミクロからマクロまで幅広く担当している。

■プログラム概要

2008 年 3 月に出された『学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)』では、国際通用性を備えた学士課程教育の構築のために「明確な『三つの方針』に貫かれた教学経営」を求めています。つまり、大学の個性・特色は「各機関の学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針」(ディプロマ・ポリシー:DP、カリキュラム・ポリシー:CP、アドミッション・ポリシー:AP に対応)に反映されるものとし、この三つの方針の共通理解の下に教職員が日常の実践に携わり、PDCA サイクルを確立することが重要だとしています。また、大学評価・学位授与機構「大学評価基準(機関別認証評価)」でも、同様の方針の策定と公表が求められています。

今回のセミナーでは、DP・CP・AP の策定と一貫性構築を進めていく業務の実際、想定される問題点、成果を上げるコツ等を、愛媛大学の経験をもとに、シミュレーション・ワークショップ形式で実施いたします。

■本プログラムの到達目標

1. DP・CP・AP の策定とそれらの一貫性構築を進めることの重要性について、政策面を含めて説明することができる。
2. DP・CP・AP の策定とそれらの一貫性構築の進め方について、愛媛大学の事例の良い点を改善すべき点を指摘することができる。
3. 自大学で取り組むべき内容とすぐにできる取り組みを挙げるすることができる。

9月9日(水)15:30～17:30／学生活動スペース(2)

授業進度を落とさずアクティブラーニング TBL (Team Based Learning: チーム基盤学習) の実際

■講師



立川 明
(高知大学総合教育センター・大学教育創造部門・准教授)

高知大学理学部化学科卒、九州大学大学院分子工学専攻
前期博士課程修了、高知大学理学部助手を経て、現職。

■プログラム概要

TBL: チーム基盤学習はPBLの一種ともとらえられます。従来型のPBLで成果を上げている方もおられると思いますが、進度や担当教員あたりの学生数など、問題が生じる場合もあるでしょう。TBLではこれらの問題を解決し、かつアクティブラーニングを行うことができます。

このワークショップでは、情報処理授業の一コマ(電子メール)を例に実際にTBLの授業を体験し、自分の授業に導入することを想定して意見交換をします。TBLは教科書に沿って授業を進める科目、あるいは事前に次回の学習内容について資料が配付できる科目で容易に導入できます。

TBLを開始してまだ2年ですが、この間の知見を基にコツなどもお伝えできと思っています。

■本プログラムの到達目標

1. 自分の授業にTBLを導入した場合の授業の進め方がわかること。
2. 非アクティブラーニング型授業や従来型PBLと比較して、TBL授業の利点が具体的に3つ以上あげられること。
3. アクティブラーニングの7つ道具を自分でそろえられること。

9月9日(水)15:30~17:30/M24教室

「学務系職員養成プログラム開発」現況報告

■講師



出川 隆富
(徳島大学学務部学務課長)

広島大学、岡山大学、広島大学を経て、平成17年4月大島商船高専学生課長、平成20年4月より現職。



植谷 和也
(徳島大学学務部学務課総務係長)

徳島大学、鳴門教育大学、徳島大学を経て、平成21年4月より現職。

■プログラム概要

SPODでは、事務職員の資質・能力向上を目的に、四国地区の国公立大学、短期大学、高等専門学校の職員が集まり、現在SDプログラムを開発中です。そのうち、「学務系職員養成プログラム」は、平成21年5月から実施してきた第2回SPOD-SDプログラム開発セミナー(5月29日~30日 担当:香川大学)、第3回SPOD-SDプログラム開発セミナー(7月2日~3日 担当:高知大学)、第4回SPOD-SDプログラム開発セミナー(7月28日~29日[予定] 担当:徳島大学)で、参加職員の皆さんがチーム毎に作成したプログラム案を基に、徳島大学の作業グループがまとめたものです。

本プログラムでは、SDプログラム開発の概要、「学務系職員養成プログラム」の内容、構築の手法及びこれまでの作業過程について説明します。また、参加者の皆さんと一緒にプログラムをブラッシュアップし、より良いものを開発できればと思います。

■本プログラムの到達目標

1. SPOD-SDプログラムの概要を説明することができる。
2. 「学務系職員養成プログラム」の内容を説明することができる。
3. SDプログラムの構築の手法を説明することができる。

9月9日(水)15:30~17:30/M33教室

学生との話し方・関わり方

■講師



平澤 明子

(愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター・准教授)

愛媛大学教育・学生支援機構学生支援センター講師を経て現職。
学生生活支援と履修指導の実践を重ねている。

■プログラム概要

本プログラムは、日常的に学生の指導・支援に関っている教職員を対象に、学生と関わる際の留意点や方法について理解を深めていただくために実施するものです。

前半では、学生の特性や場面に応じた対応のポイント、効果的な面談の方法、学生／保護者への連絡方法、教職員の連携の方法について、事例を示しながら紹介します。知っている学生指導が楽になる、ちょっとしたコツを中心にお伝えします。また、愛媛大学における学生支援のシステムを紹介し、教職員がどこまで生活指導に関ったらよいのか(何をして何をしないか)という点について共に考えていきます。

後半では、情報交換の時間をとり、指導経験から得られたコツや普段から工夫されていること、あるいは対応に苦慮した事例等を共有します。

■本プログラムの到達目標

1. 学生と関わる際の留意点や方法について理解を深める。
2. 学生指導の工夫やヒントを参加者間で共有する。

9月10日(木)10:00~12:00/グリーンホール

プレゼンテーションの極意① 講義でも使える「聴き手を魅了する構成法」とは？

■講師



田中 省三

(愛媛大学 教育・学生支援機構 客員准教授)

龍谷大学非常勤講師(プレゼンテーション演習を担当)を経て、プレゼンテーションの極意・事務局を設立、代表に就任し、全国各地で研修・講演を行う。東海大学チャレンジセンター准教授を経て、現職。全国各地の各種団体・企業などで、自己PRのノウハウやプレゼンテーション・スキル、教え方の極意を伝授。

■プログラム概要

プレゼンテーションや授業においては、構成は設計図のようなものであり、より良い構成で資料やパワーポイントを作るデザイン力を身につけることは、より良いプレゼンや授業を行うためのスタート地点となります。しかし、聴き手を魅了する構成＝設計図を作りこむためには、様々なスキルが必要となります。

本プログラムでは、プレゼンや授業全体をどのようにデザインするかというスキル、タイトル作成の秘訣、目的・目標を一層明確化するためのヒントなどを、具体例を示しながら解説し、参加者の皆様に魅力的なプレゼンや授業が出来るようになるヒントを持ち帰って頂きます。

ミニ・ワーク、グループ・ワークの時間を何度も取りますので、参加者はご自分のプレゼン資料か、授業で配布している資料・レジメなどを1点選んでご持参下さい。それをプログラムの最中にご提供するスキルに照らし合わせながら、具体的な改善策を発見して頂きます。その結果、次回からは聴き手を魅了するプレゼンや授業ができるようになります。

■本プログラムの到達目標

1. 聴き手を魅了するプレゼンテーションの構成法を習得できる。
2. プレゼンテーションや講義の目的・目標を明確に説明できる。
3. 内容構成法を講義や講演で活用できる。
4. 授業全体をデザインできるスキルを身につけることができる。

9月10日(木)13:00~15:00/グリーンホール

プレゼンテーションの極意②「聴衆を引きつける話し方」の秘訣とは？

■講師



田中 省三

(愛媛大学 教育・学生支援機構 客員准教授)

龍谷大学非常勤講師(プレゼンテーション演習を担当)を経て、プレゼンテーションの極意・事務局を設立、代表に就任し、全国各地で研修・講演を行う。東海大学チャレンジセンター准教授を経て、現職。全国各地の各種団体・企業などで、自己PRのノウハウやプレゼンテーション・スキル、教え方の極意を伝授。

■プログラム概要

自分が伝えたいことがあっても、話し方・伝え方が良くないと、聴き手のハートに響きません。より良い話し方・説明技術など身につけることは、より良いコミュニケーション・プレゼンテーションや授業を行うためのスタート地点となります。しかし、聴き手を魅了する話し方を習得するためには、様々なスキルが必要となります。

本プログラムでは、声の使い方のポイント、ボディーランゲージなどのコツ、大人数の前で話す時のリラックス法などを、具体例を示しながら解説し、参加者の皆様が魅力的な話し方が出来るようになり、聴き手を引き付けるプレゼンや授業が可能となるヒントを持ち帰って頂きます。

ミニ・ワーク、グループ・ワークの時間を何度も取りますので、参加者は、今自分が話し方などで何に困っているのかを明確にして、ノートなどに書き出してからご参加いただくと、このプログラムは一層効果的なものとなります。最終的な目標は、聴き手を引きつける話し方ができるようになることです。

■本プログラムの到達目標

1. 聴き手を魅了する話し方ができるようになる。
2. 声の使い方・ボディーランゲージなどのポイントを身につけることができる。
3. 緊張を解きほぐし、リラックスして話せるためのコツを習得できる。

9月10日(木)10:00~12:00／学生活動スペース(2)

公開授業と授業アンケートの効果的な活用方法

■講師



佐藤 浩章

(愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 副室長・准教授)

北海道大学教育学部教育学科卒業。同大学院教育学研究科教育制度専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位取得満期退学。ポートランド州立大学客員研究員。愛媛大学大学教育総合センター教育システム開発部講師、同センター教育開発部講師、同部助教授を経て現職。

■プログラム概要

公開授業と授業アンケートは、日本において最も一般的な授業改善活動の一つだと言えます。一方で、それだけに形式的な実施に陥っているという声も聞きます。「やりっ放し」にせず、授業公開や授業アンケートを効果的なものにするには、それらをどのように実施したらよいのでしょうか。またその結果をどのように活用したらよいのでしょうか。

本プログラムでは、国内外の様々な事例を紹介しながら、公開授業と授業アンケートの効果的な実施方法、活用方法を以下の項目で説明します。

1. 私が公開授業を推奨しない理由
2. 行動変容につながる公開授業と授業検討会の鉄則
3. たかが授業アンケート、されど授業アンケート
4. やりっ放しにならない授業アンケート活用方法

参加者は、自らの職場において公開授業や授業アンケートを見直すヒントを持ちかえることができます。

■本プログラムの到達目標

1. 効果的な公開授業と授業検討会の進め方を説明できる。
2. 授業アンケートの特性を説明できる。
3. 授業アンケートの効果的な活用方法を説明できる。

9月10日(木)10:00~12:00/M23教室

様々な学習支援の方法

■講師



城間 祥子

(愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 助教)

筑波大学第二学群人間学類卒業。同大学院人間総合科学研究科心理学専攻単位取得退学。修士(心理学)。専門は教育心理学。



庭崎 隆

(愛媛大学 教育・学生支援機構 共通教育センター 准教授)

北海道大学理学部数学科卒業。同大学院理学研究科数学専攻博士課程中途退学。博士(理学)。専門は代数学。



山内 一祥

(愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室・特定研究員)

岡山理科大学理科学部化学科卒業。愛媛大学大学院教育学研究科理科教育専攻修士課程修了。専門は教育方法学。

■プログラム概要

1. 学習支援の枠組み整理

学生の学びを促す取り組みにはどのようなものがあるかを整理します。

○時期に応じた学習支援 ○学習支援の担い手 ○学習環境の整備

○学生生活の支援 ○単位の実質化

2. 愛媛大学における学習支援の事例

①リメディアル教育

新入生を対象とした、共通教育理系基礎科目「微積分」に対する補完教育として、共通教育主題科目「数理と論理の世界」(授業題目「初級微積分」)を前学期に5クラス開講(220名程度)。広範な高校数学Ⅱ、Ⅲの領域+ α を短期間で習得するため、受講生は次のことを期待される。

○学習のモチベーションを高め、維持する。 ○授業時間外学習の習慣を身につける。

また、多数のスタッフが関わる組織的な取り組みであり、特に担当教員・TA・SHD間の連携が重要な要素となる。

②スタディ・ヘルプ・デスク(SHD)

主に共通教育の授業を対象にした、大学院生による学習支援室の取組を紹介します。

○学習スタイルコンサルテーション ○教科学習支援

3. 参加者間での取り組み事例の共有

各大学の取り組み事例について情報交換し、改善策を考えていきます。

■本プログラムの到達目標

1. 多様な方法で学習支援に取り組むことができることを理解する。
2. 各大学等で行われている学習支援の事例を共有する。
3. 学習支援の取り組みを充実させるためのアクションプランを作成する。

9月10日(木)10:00~12:00/M31教室

スタッフポートフォリオによる大学職員人事マネジメント①

■講師



秦 敬治

(愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 副室長・准教授)

西南学院大学商学部経営学科卒業。九州大学大学院人間環境学研究所発達・社会システム専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位修得満期退学(教育学博士)。

学校法人西南学院本部・大学経理課係長(主査)、愛媛大学経営情報分析室助教授を経て現職。



米澤 慎二

(愛媛大学 経営企画部人事課長)

愛媛県立川之石高等学校卒業後、国立大洲青年の家採用、国立特殊教育研究所、香川医科大学(現香川大学)、東京医科歯科大学、愛媛大学で勤務、主に人事系を中心に業務を行ってきたが、法人化後、広報室長、総務課長(この間危機管理室長兼務)を歴任し、現職に至る。現在はSPODにおけるSD担当者として、スタッフ・ポートフォリオの開発及びSDプログラム開発を担当している。

■プログラム概要

スタッフポートフォリオとは何か?また、スタッフポートフォリオの有益性とは何かなどを明示した後、愛媛大学ではどのような導入を目指しているのかを示す。

スタッフポートフォリオは大学や大学職員人事マネジメントにどのような影響や効果を与えるのであろうか。また、職員個人にどのような影響や効果があるだろうか。さらには、スタッフポートフォリオは簡単に作成することができるのであろうか。作成する場合に重要なこととは何であろうか。このような疑問を一つずつ解決できるようなプログラムである。

■本プログラムの到達目標

1. スタッフポートフォリオとは何かを説明することができる。
2. スタッフポートフォリオの有益性を人事マネジメントの面から説明できる。
3. スタッフポートフォリオの有益性を職員個人の面から説明できる。
4. スタッフポートフォリオ作成の際に重要になるポイントを説明できる。

9月10日(木)13:00~15:00/M31教室

スタッフポートフォリオによる大学職員人事マネジメント②

■講師



秦 敬治

(愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 副室長・准教授)

西南学院大学商学部経営学科卒業。九州大学大学院人間環境学
研究科発達・社会システム専攻

修士課程修了。同専攻博士課程単位修得満期退学(教育学博士)。
学校法人西南学院本部・大学経理課係長(主査)、愛媛大学経営情
報分析室助教授を経て現職。



米澤 慎二

(愛媛大学 経営企画部人事課長)

愛媛県立川之石高等学校卒業後、国立大洲青年の家採用、国立特
殊教育研究所、香川医科大学(現香川大学)、東京医科歯科大学、
愛媛大学で勤務、主に人事系を中心に業務を行ってきたが、法人化
後、広報室長、総務課長(この間危機管理室長兼務)を歴任し、現
職に至る。現在はSPODにおけるSD担当者として、スタッフ・
ポートフォリオの開発及びSDプログラム開発を担当している。

■プログラム概要

スタッフポートフォリオ作成プロセスを理解した上で、実際に自らのポートフォリオを作成することにより、ポートフォリオ作成の意義や有効性を理解するプログラムである。

スタッフポートフォリオ作成には、どのような情報が必要であり、どのようなプロセスを経ているのかを実践し、自らのポートフォリオ作成手法を修得する。

■本プログラムの到達目標

1. スタッフポートフォリオの作成手法を説明できる
2. 自らの簡単なスタッフポートフォリオを作成することができる
3. スタッフポートフォリオを完成させるまでのプロセスを説明できる

9月10日(木)10:00~15:00(2コマ連続)／M33教室

人を育てるコーチング・メンタリング①②

■講師



菊入 和子
(オフィスぐりん代表)

(財)公務研修協議会専任講師。人事院人材局で研修研究官として公務研修の企画・開発に従事し、2008年独立。(財)生涯学習開発財団認定コーチ、キャリアコンサルタント、産業カウンセラー。

講談師田辺一鶴に師事し、重要無形文化財である江戸の伝統話芸「講談」を継承すべく修行中。

■プログラム概要

業務の速い展開、専門化、細分化により、上司によるOJTは困難に。しかし教えられないからと放置しては人は育ちません。上司は育て方が分からず、若い世代は仕事を通じた成長実感が得られない現状は、モチベーションのダウンや人材流失にもつながり、組織にとっても損失です。

仕事の技能や手順を「ティーチ」するのではなく、コーチングスキルにより、本人からやり方、あり方を引き出し、それを支援する、メンタリング機能に沿った人材育成。

講座は実践中心です。参加者同士ペアになり、引き出し育てるコーチングの「6つの基本スキル」をマスターします。これらのスキルは仕事の道具です。シンプルで、明日からすぐ職場で使える、コミュニケーションの道具を手にしてください。

「仕事や課題をどうこなすか」のTO DOだけでなく、「自分は現在、そして将来に向けてどう在るか」のTO BEも扱いますので、キャリア開発支援のアプローチも学べます。

■本プログラムの到達目標

1. OJTの現状とメンタリングの機能について理解している。
2. 日常業務の中で、6つの基本スキル、①傾聴、②承認、③質問、④フィードバック、⑤アドバイス、⑥リクエスト を使って、5分間コーチングができるようになる。

9月10日(木)10:00~12:00/M24教室

学生支援にどう取り組むか

■講師



西本 佳代

(香川大学 教育・学生支援機構 助教、学生支援 GP コーディネーター)

広島大学教育学部第五類教育学系コース卒業。同大学院教育学研究科教育学専攻博士課程前期修了。同研究科教育人間科学専攻博士課程後期退学。平成 20 年 10 月より現職。

■プログラム概要

このプログラムは、個々の大学の実情に沿った学生支援の取組を立案することを目的としています。近年、学生支援の重要性が指摘され、多くの大学において、キャリア支援、修学支援、課外活動支援、健康支援など、広範多岐にわたる支援活動が実施されています。このプログラムの前半では、平成 19 年度、20 年度に採択された「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」を題材に、最新の学生支援の動向を整理・分類、特徴的な取組内容を紹介します。そして、プログラムの後半では、学生支援プログラムを参考に、参加者の皆様に、個々の大学の実情に沿った学生支援の取組を考えていただきます。個々の大学において学生支援に取り組む際の一助となればと考えます。

■本プログラムの到達目標

1. 全国的な学生支援の取組の動向を説明することができる。
2. 自分の大学において支援の対象とすべき事柄を説明することができる。
3. 自分の大学の課題に即した学生支援の取組をデザインできる。
4. 立案した学生支援の取組を他者に対して適切な形で説明することができる。

9月10日(木)13:00~15:00/学生活動スペース(2)

ものづくりとアクティブラーニング

■講師



英 崇夫

(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部・教授)

1969年徳島大学大学院工学研究科修士課程精密機械工学専攻修了。徳島大学工学部助手、講師、助教授を経て1993年に徳島大学工学部教授。2004年に徳島大学創成学習開発センター長、2007年に改組された徳島大学工学部創成学習開発センター長を2008年度まで勤める。この間、1984年にカールスルーエ大学(西ドイツ)の客員研究員。日本機械学会、日本材料学会などの会員、日本工学教育協会会員。2008年に日本工学教育協会特別教育士の資格を取得。専門は機械材料、X線応力解析、工学教育。

■プログラム概要

徳島大学工学部創成学習開発センターの学生プロジェクトチームが、自主創造活動を行い、「自主・共創」の精神でものづくりを行う事例を紹介する。

自主的に活動させているが、全てのチームがうまく成功するわけではない。なぜプロジェクトが失敗するのか、どういう場合に成功するのかを分析した結果、あらかじめプロジェクト活動の全容を把握できていなければプロジェクトとして働かないことがわかった。

プロジェクトマネジメントの手法を学生と共に考え試行している。「発想⇒計画(設計)⇒実行(狭義ものづくり)⇒評価⇒改善」のしくみを理解し、「目的⇒目標⇒実践⇒評価」をきちんと頭に入れることによってプロジェクトは効果的に進む。

また、体験の中から学生達はアクティブに活動するようになる。

(事例1)たたらプロジェクト

日本古来の製鉄法であるたたらの復元プロジェクト。たたら製鉄作業を行う傍ら、鉄鋼材料の学習を自主的に開始し、初心者向けの鉄鋼材料学習支援のe-ラーニング教材を作成している。

(事例2)Earth LEDプロジェクト

ふりふり棒の製作から始まった電気電子工学科の学生グループが機械工学科の学生を取り込み、デザインプロジェクトのメンバーや企業技術者の意見を吸収しながら、「共創」の精神をフルに発揮して展示用Earth LEDを作製した。

■本プログラムの到達目標

自主的なものづくり活動の成功法を知ること。

9月10日(木)13:00~15:00/M23教室

人文系授業の TBL 入門

■講師



塩崎 俊彦

(高知大学 総合教育センター 教授)

上智大学文学部国文学科卒。同大学院文学研究科国文学専攻博士前期課程修了。同専攻博士後期課程単位取得満期退学。神戸山手大学人文学部教授を経て現職。

■プログラム概要

TBL(チーム基盤学習)は医学教育の現場などでの実践例が多く報告されている授業手法であるが、以下のような特徴がある。

- (1) 予習を義務付ける。
- (2) チーム数が多くても教員一人で担当できる。
- (3) 授業中にグループワークを行う。
- (4) 進度を教員がコントロールできる。

このワークショップでは、これら TBL の利点を活かした人文系授業の実際を体験しつつ、聴講者各位の授業への導入の可能性を探っていただきたい。

なお、参加希望者には、事前に課題となる文章をお送りしますので、これを読んでくること。

■本プログラムの到達目標

1. TBLの概要とその特徴を説明できる。
2. TBLの授業運営について説明できる。
3. 自分の授業にTBLを導入するための授業デザインが説明できる。

9月10日(木)15:30~17:30/グリーンホール

学長対談「全学的な教育改革をどう進めるか？」

■講師



濱名 篤
(関西国際大学長)

関西国際大学長。教育学部教授(人間学部教授併任)。学校法人濱名学院理事長。博士(社会学、上智大学)。専門は、教育社会学、高等教育論。



柳澤 康信
(愛媛大学長)

国立大学法人愛媛大学長。博士(理学、京都大学)。1978年愛媛大学に着任。理学部教授、理事等を経て2009年より現職。専門は生態学(行動生態学)。

司会：秦 敬治(愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 副室長・准教授)

■プログラム概要

大学における教育改革の必要性が叫ばれているが、多くの大学ではその必要性を理解しつつも、大学固有の組織文化や学部や部局の壁などにより、効果的に進められているケースは多く見当たらない。

このプログラムは、国内の私立大学で教育改革を積極的に推進している関西国際大学の濱名学長と、国立大学で積極的に推進している愛媛大学の柳澤学長の対談を通じ、全学的な教育改革の効果的な進め方の事例や障壁となる要素を提示いただき、参加者の大学における全学教育改革の一助となることを目的とする。また、全学教育改革を導く学長のリーダーシップ・スタイルとはどのようなものかについても掘り下げる予定である。

■本プログラムの到達目標

1. 全学教育改革の障壁となるものの説明ができる。
2. 全学教育改革の事例を説明することができる。
3. 全学教育改革の手法を説明することができる。
4. 全学教育改革を行う上での学長のリーダーシップ・スタイルを説明できる。

9月11日(金)13:00~15:00/学生活動スペース(2)

授業の双方向性を高めるクlicker入門

■講師



秦 敬治

(愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 副室長・准教授)

西南学院大学商学部経営学科卒業。九州大学大学院人間環境学研究所発達・社会システム専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位修得満期退学(教育学博士)。学校法人西南学院本部・大学経理課係長(主査)、愛媛大学経営情報分析室助教授を経て現職。

■プログラム概要

講義形式の大人数授業では、教員から受講生への一方通行の伝達になりがちではないでしょうか。通称クlickerと呼ばれるリモコンを受講生に配布することで設問やアンケートを手軽に実施でき、その応答結果は、即座にスクリーン上に棒グラフなどで表示されます。このことで、教員と受講生との双方向性が高まり、さらには受講生の集中力を維持したり理解度を把握したりできます。また、パソコンに応答結果を保存できるので便利です。授業のみならず研修会や講演会等でも威力を発揮する汎用性の高いものです。

クlickerの使い方について、インストール、スライドの作成等の準備段階から実際の授業での使用方法までをわかりやすく説明します。また、参加者にはクlickerを体験していただきます。

■本プログラムの到達目標

1. クlickerの使い方を理解する。
2. クlickerを用いた授業や学会発表での方法を知る。

講義のための話し方入門

■講師



小林 直人

(愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室室長
愛媛大学 医学部 総合医学教育センター長・教授)

昭和 63 年3月東京大学医学部医学科卒、博士(医学)。順天堂大学を経て、平成 10 年より愛媛大学医学部解剖学第一講座助教授、平成 17 年より愛媛大学医学部総合医学教育センター教授。平成 21 年度より教育・学生支援機構 副機構長および教育企画室長を兼任。医学教育関係のFD活動の他、本プログラムでも毎年講師を担当して

写真未掲載

飯島 永津子

(愛媛大学医学部教育協力者)

テレビ朝日系列民放局、NHK 松山放送局アナウンサーを経て、フリーアナウンサー。愛媛・香川でのカルチャースクール講師(マナー・ボイストレーニング)、BMI(ビジネスマナーインストラクター)認定講師として病院・企業の社員教育に携わる。平成 14 年より全日本作法会教授。平成 19 年度より愛媛大学医学部教育協力者として医学生の教育に携わる。

■プログラム概要

「良い」講義とはここでは、わかりやすく、知的な緊張感があり、学生が参加する(した気にさせる)講義をいいます。良い講義をするために気をつけておかなければならない話し方のコツを、実例や実習を通して習得することができます。

本プログラムでは、私が講義の時に気をつけている「どうしたらわかりやすい話し方ができるか」というコツや、講義で使わざるを得ない「発音が難しい言葉・聞き手に区別がしにくい言葉」について解説します。また、実例をもとに、話し方だけでなく、「何を話すべきなのか」「話さなくてもよいことはないのか」についても演習していきます。

さらに後半では、外部講師(愛媛大学医学部教育協力者)により、大きな声を出すためやはっきりと発音するための発声練習も行います。講義を受け持つようになって間もない教員の方はもちろん、自分の講義を振り返りたいと思われる方も是非受講ください。

■本プログラムの到達目標

1. 良い授業とは何かを説明できる。
2. 「学生中心の大学」の実現のために良い授業ができるようになる。
3. 講義をするときに教員として注意が必要な話し方のコツを習得し、自分の授業に生かすことができる。